

目的 接着芯地は、出来上り被服の風合いに、大きく関与すると思われる。接着芯地の選定は、被服構成時、企画段階で決定されることから、何らかの基準をもとに、的確な芯地選定を行うことは、美しい風合いへとつながると考えられる。

すでに、演者らは、芯地のドット数の面積比、および、厚さ、重さの測定値と、官能評価の相互関係から予測式を求めているが、ここでは、さらに、服種別に、表布と芯地の接着後の計測値と官能評価との関連を調べ、より実際的で、的確な、予測選定の数式を導くための要因を求めることを目的とした。

方法 スーツ類（重衣料）、ブラウス類（軽衣料）の前芯を対象とした。試験布は、表布18点、芯地15点であり、これら2者の組合せによる複合体105点を試料として用い、それぞれについて、ドレープ係数、曲げ剛さ、重さ、厚さを計測し、複合体から表布の物性値を減じたものを、接着剤、および、接着時の物理的変化を加味したものと考えた。これらと、一対比較法による官能評価との関連を調べ、的確な芯地選定の予測を検討した。

結果 芯地の選定に関与している物性値を求めた結果、服種別に違いがみられ、スーツ類の場合は、曲げ剛さが、ブラウス類の場合は、ドレープが、大きく関与していることがわかった。また、複合体から表布の物性値を減じたものを、実測値として考えた場合の方が、芯地のドット数、および、厚さ、重さからの予測をしたモデルよりも、加熱による接着剤の溶融による変化量、および、表布地の特性も、計測値に含めたものであり、より妥当性が確認され、実用化にも簡便である結果を得た。